

新聞情報活用の基礎を培う

植田恭子 大阪府大阪市立天王寺中学校教諭

基礎編の ねらい

1. NIEを展開するうえでの新聞の読み方の手引きの要素を盛り込んだものである。
2. 新聞情報を核とした情報活用能力育成のための総合単元とする。
3. 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」という言語能力を育成する学習活動を展開し、「総合的な学習」の基礎を培う単元とする。

I

新聞っておもしろいよ — NIEびらき — 【新聞情報に親しむ】

第1時 新聞に触れる

1. 「新聞」と聞いて想起することを書き出す【課題意識をもつ】

発問⇒ 「新聞と聞いてあなたはどんなことをイメージしますか。いくつでもよいですから、書き出してみましょう」
2. 1日どのくらい新聞を読んでいるか意識調査をする（時間的に余裕があればメディア全般について調査したい。新聞を定期購読していない家庭の生徒への配慮が必要）
3. 「新聞」という言葉を辞書で調べる
 - それぞれの辞書の定義を視写する
 - 用例もあわせて書き出す
4. 各班（5人程度が望ましい）に分かれ、新聞からイメージしたことを伝え合う【「情報の交流」をする】

発問⇒ 「新聞を隅から隅まで読んだことがありますか。実際に新聞に触れてみましょう」
5. 各班に複数の新聞を配布する

指導のポイント NIEにおいて、新聞との出会いは大きな意味をもつ。最初はだれもが興味、関心をもって読める記事が多い日の新聞を用意したい。
6. 第1面から新聞記事を読む【情報を読む】

発問⇒ 「新聞にはいろいろな記事が載っていますね。今日はテレビ欄からではなく、第1面からどんな情報が載っているかを書き出してみましょう」

指導のポイント 第1面から情報を識別させることで、新聞は情報の宝庫であり、さまざまな情報が満載されていることを実感させる。
7. 新聞についての基礎知識を学習する

資料 ①

発問⇒ 「新聞は大人の読みものと思っていた人が多かったかもしれませんが、中学生にも読めることが分かりましたね。では、新聞を使って学習するうえで知っておいて欲しい基礎知識をまとめておきましょう」

指導のポイント 新聞情報を書き出す時に、新聞の面、題字、見出し、トップ記事、リード（前文）、コラム、社説など新聞の構成について説明を加えながら読み進める。

第2時 こどもの日の新聞を読む

8. 5月5日付新聞を読む【情報を読む】

資料 ②③

発問 ①⇒ 「第1面を見て、題字、トップ記事、コラム、写真をマーカーでチェックしましょう」

資料① 新聞の特長

版

新聞は配る地域によって版を切り替え、発行本社に近い版ほど遅く印刷されます

第3種郵便物

新聞は第3種郵便物の認可を受けており、一般の郵便物より安い料金が設定されています

写真と絵解き

カラー写真が当たり前の時代に、写真の説明文を絵解きといっています

トッパン見出し

記事の内容を短い言葉で表したものです

発行日

新聞が発行された日付

号数

創刊から、その日の号までの通し番号

題号

新聞の名前。縦書きと横書きがあります

主見出し

新聞の最も重要な見出し

袖(そで)見出し

主見出しの横書き

リード記事

長い記事につけられた要約

天気予報


最近では天気図のカラー化や時間帯ごとの予報など、さまざまな工夫がみられます

コラム

世の中の出来事や季節のテーマを扱った短い文章。筆者の意見や感想が盛り込まれることが多いです

新聞広告

ほとんどの新聞の朝刊(面下)は書籍(雑誌)広告欄。題字の下にあるのが題字下広告(題字が横書きの時は「題字横」)、記事の中にあるのを「記事中広告」といいます



● 逆ピラミッド型の文章と5W1H

新聞記事は、全文を要約し結論をまじえた前文(リード)といえます)から始まります。文章構成が結・起・承・転と逆立ちした感じ。新聞社がこのような文型(逆ピラミッド型)を採用しているのは、読者にいち早くニュースの骨子を伝えるためです。他の重要ニュースを追加しようとする時、記事を後段から削って、スペースを開けます。

記事作成の際、欠くことのできないのが5W1Hです。WHO(だれが)、WHEN(いつ)、WHERE(どこで)、WHAT(なにを)、WHY(どんな理由で)、HOW(どういう手段で)の6要素です。事件発生時、不明なことが多いWHY(動機)は、分かり次第、続報するのが新聞報道の基本です。

● 見出しとリードで概略が分かる

見出しは、編集部(整理部ともいう)の記者がリードから引き出してつけます。見出しにざっと目をとおすだけでも、紙面が知らせようとしている出来事の核心に触れることが可能です。編集記者は、政治部や社会部など各部から投稿された原稿をまず最初に読む第一読者です。記事から受けた新鮮な驚き、社会への影響度、国際性や予測性といった要素をごく限られた文字数の中で表現します。

● どのページからでも読める

新聞紙面は読者の興味、関心、ニーズに応じて分野別にまとめられています。全ページをざっとめくるだけで、その日の主なニュースが素早く分かる——これを新聞の一覧性といえます。

また、小脇に抱えて持ち運べ、読みたい時に読めます(軽便性)。記事を切り取って保存・整理し、何度でも繰り返して内容を確認られます(保存性、記録性)。いずれも、新聞の優れた長所です。

それだけではありません。新聞は大事件や大事故などが発生した時、その原因、背景を分析し、社会に及ぼす影響について、読者に知らせます。

資料② 読売新聞 1999. 5. 5付朝刊



読売新聞 THE YOMIURI SHIMBUN 5月5日 水曜日

米、景気刺激継続求める
首相は追加示唆
「コソボも積極貢献」

長銀元副頭取を事情聴取
隠へい決算決裁

米で電機4人死亡

米で電機4人死亡

米で電機4人死亡

資料③ 茨城新聞 1999. 5. 5付朝刊



茨城新聞 THE IBARAKI SHIMBUN 1999年5月5日 水曜日

児童・生徒の再登校支援
「適応指導教室」
新たに7市町で

景気刺激策継続を要求
機動的な経済運営約束
日米首脳会議

県内は47万2千人

新人の一騎打ちか
県議補選7日に告示

建設廃棄物は地域内処理
都道府県がマスター計画

全国的対応も必要

直轄市個人市民生活者

県議補選7日に告示

新人の一騎打ちか

県議補選7日に告示

発問②⇒ 「ワークシートにトップ記事の見出し、第1面に掲載されている写真の絵解き（写真を説明する文）、コラムの話題を書き出してみましょう」 **資料④**

発問③⇒ 「次に社説のタイトル、スポーツ面の話題、4コマまんが、おもしろそうなテレビ番組などを抜き出しましょう」

発問④⇒ 「記事を読んで、思ったこと、感じたことをコメントしましょう」

9. 5月5日付新聞から子どもに関連した記事を収集する〔情報を選択する〕

資料⑤～⑨

発問⇒ 「こどもの日の新聞から子どもに関係した記事をチェックしましょう」

指導のポイント 広告にも注目させ、紙面の3～5割近くが広告であることを説明する。また、1日で新聞社に集まる記事の量は、250ページの文庫本5冊分に相当することや、30ページ前後（朝刊の場合）の紙面のなかには、平均して1本40行の記事が150～180本ほど掲載されていることなども紹介する。

10. 子どもに関係した記事をすべてスクラップする〔情報を活用する〕

指導のポイント スクラップ方法はいろいろあるが、ここでは第1段階としてA4判のノート（スクラップブック）を用意させ、切り抜いた記事を張る方法を学ばせる。

11. 新聞情報収集の基礎を知る

発問⇒ 「さまざまな情報は情報源を明らかにすることが大切です。1999年5月5日〇〇新聞朝刊or夕刊と必ず記入しましょう。情報源（クレジット）が明らかでない情報としての価値をもちません」

指導のポイント 著作権の学習の第一歩として、出典を明らかにすることを学ばせる。

第3時 「新聞情報の交流」をする

12. 興味、関心をもった事柄について、「情報の交流」をする〔「情報の交流」をする〕

発問①⇒ 「スクラップしたなかから、興味をもった記事についてみんなで伝え合ひましょう」

発問②⇒ 「伝え合いをする準備をしましょう。まずワークシートに書き込み、考えをまとめましょう」

- 記事の見出しを書き出しましょう
- 5W1Hを書き出しましょう
- なぜ興味をもったのかをまとめておきましょう

指導のポイント 課題意識を育てるうえで、学習者の興味、関心は常に意識させたい。また、「総合的な学習の時間」のベースにもなる。

- 記事を読んで思ったことを書きましよう
- 友だちに一番伝えたいことを書きましよう

発問③⇒ 「教室で意見を発表する人は情報の送り手『発信者』です。発表を聞いている人は、聞き手『情報の受信者』です。だれもが情報の発信者であり、受信者となります。送り手の時は受け手を、受け手の時は送り手を意識し、お互いの立場を思いやって発表したり、聞いたりしましょう」

指導のポイント 「聞き上手は話し上手」などを示し、情報の送受信について考えさせる。

発問④⇒ 「各グループで『情報の交流』をしましょう」〔「情報の交流」をする〕

指導のポイント 「情報交流カード」に聞き取り、メモを取らせる。

資料⑩

発問⑤⇒ 「各グループで、情報を一番分かりやすく発信した人を選びましょう」

発問⑥⇒ 「各グループの代表の情報発信をしっかりと聞き、どこがよかったのかをしっかりと学び合ひましょう」

指導のポイント 各グループの代表の発表から、情報伝達のあり方について考えさせる。

